

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.3.8-14

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

21:23 それから、イエスが宮にはいって、教えておられると、祭司長、民の長老たちが、みもとに来て言った。「何の権威によって、これらのことをしておられるのですか。だが、あなたにその権威を授けたのですか。」

21:24 イエスは答えて、こう言われた。「わたしも一言あなたがたに尋ねましょう。もし、あなたがたが答えるなら、わたしも何の権威によって、これらのことをしているかを話しましょう。」

21:25 ヨハネのバプテスマは、どこから来たものですか。天からですか。それとも人からですか。」すると、彼らはこう言いながら、互いに論じ合った。「もし、天から、と言えば、それならなぜ、彼を信じなかったか、と言うだろう。」

21:26 しかし、もし、人から、と言えば、群衆がこわい。彼らはみな、ヨハネを預言者と認めているのだから。」

21:27 そこで、彼らはイエスに答えて、「わかりません。」と言った。イエスもまた彼らにこう言われた。「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに話すまい。」

21:28 そこで、あなたがたは、どう思いますか。ある人にふたりの息子がいた。その人は兄のところに来て、『きょう、ぶどう園に行っておいでしてくれ。』と言った。

21:29 兄は答えて『行きます。おとうさん。』と言ったが、行かなかった。

21:30 それから、弟のところに来て、同じように言った。ところが、弟は答えて『行きたくありません。』と言ったが、あとから悪

かったと思って出かけて行った。

21:31 ふたりのうちどちらが、父の願ったとおりにしたのでしょうか。」彼らは言った。「あとの者です。」イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。取税人や遊女たちのほうが、あなたがたより先に神の国にはいっているのです。」

21:32 というのは、あなたがたは、ヨハネが義の道を持って来たのに、彼を信じなかった。しかし、取税人や遊女たちは彼を信じたからです。しかもあなたがたは、それを見ながら、あとになって悔いることもせず、彼を信じなかったのです。

民衆がイエスになびくのに危機感を持っていた指導者たちは、イエス様を陥れることを考えていました。イエス様には何の権威もないことを明らかにしよとしたのです。もしも天の父なる神からの権威と答えるならば、神を冒瀆していると訴えるつもりだったのでしょう。

しかしイエス様は、むしろ指導者たちに権威がないことを明らかになさいました。神から遣わされたバプテスマのヨハネに関しても、神第一の考えではなく、保身しか考えになかったのです。

このように神様の権威を認めずに、人間的なことしか頭になく、保身を第一とするような人は、権威がありそうにしているても、実際はみじめな者でしかありません。イエス様はそのような人々を、取税人や遊女よりも劣ると言われているようです。自分の罪を認めず謙遜にすべからぬからです。

神様の権威の前に、謙遜に、そして勇気を持って生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は抜おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 火曜

マタイ



21:33 もう一つのたとえを聞きなさい。ひとりの、家の主人がいた。彼はぶどう園を造って、垣を巡らし、その中に酒ぶねを掘り、やぐらを建て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。

21:34 さて、収穫の時が近づいたので、主人は自分の分を受け取ろうとして、農夫たちのところへしもべたちを遣わした。

21:35 すると、農夫たちは、そのしもべたちをつかまえて、ひとりには袋だたきにし、もうひとりには殺し、もうひとりには石で打った。

21:36 そこでもう一度、前よりもっと多くの別のしもべたちを遣わしたが、やはり同じような扱いをした。

21:37 しかし、そのあと、その主人は、『私の息子なら、敬ってくれるだろう。』と言って、息子を遣わした。

21:38 すると、農夫たちは、その子を見て、こう話し合った。『あれはあと取りだ。さあ、あれを殺して、あれのものになるはずの財産を手に入れようではないか。』

21:39 そして、彼をつかまえて、ぶどう園の外に追い出して殺してしまった。

21:40 このばあい、ぶどう園の主人が帰って来たら、その農夫たちをどうするでしょう。」

21:41 彼らはイエスに言った。「その悪党どもを情け容赦なく殺して、そのぶどう園を、季節にはきちんと収穫を納める別の農夫たちに貸すに違いありません。」

21:42 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちの見捨てた石。

それが礎の石になった。これは主のなさったことだ。私たちの目には、不思議なことである。』

21:43 だから、わたしはあなたがたに言います。神の国はあなたがたから取り去られ、神の国の実を結ぶ国民に与えられます。

21:44 また、この石の上に落ちる者は、粉々に砕かれ、この石が人の上に落ちれば、その人を粉みじんに飛ばしてしまいます。」

21:45 祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスのこれらのたとえを聞いたとき、自分たちをさして話しておられることに気づいた。

21:46 それでイエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者と認めていたからである。

神様がイスラエル民族に、律法を与えて神の国のために生きることを委ねたのに、彼らは預言者を迫害し、また御子イエスまでも十字架に付けてしまいました。その叛逆に対して、さばきが当然であることが明かにされています。

イスラエルに律法が与えられたのは、同じように全人類も、律法を守りきれずに罪を犯すことを明かにするためです。確かに全ての人には、神様から自由意志を与えられているのに、それを不従順のために働かせてしまいました。私達もイスラエル人と一緒なのです。

「神の国はあなたがたから取り去られ、神の国の実を結ぶ国民に与えられます。」とありますから、私達は実を結ぶものとなりましょう。今日も何か、神の国のために行いをして、良い実を結びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 水曜

マタイ

22:1 イエスはもう一度たとえをもって彼らに話された。

22:2 「天の御国は、王子のために結婚の披露宴を設けた王にたとえることができます。

22:3 王は、招待しておいたお客を呼びに、しもべたちを遣わしたが、彼らは来たがらなかった。

22:4 それで、もう一度、次のように言いつけて、別のしもべたちを遣わした。『お客に招いておいた人たちにこう言いなさい。「さあ、食事の用意ができました。雄牛も太った家畜もほふって、何もかも整いました。どうぞ宴会にお出かけください。」』

22:5 ところが、彼らは気にもかけず、ある者は畑に、別の者は商売に出て行き、

22:6 そのほかの者たちは、王のしもべたちをつかまえて恥をかかせ、そして殺してしまつた。

22:7 王は怒って、兵隊を出して、その人殺しどもを滅ぼし、彼らの町を焼き払った。

22:8 そのとき、王はしもべたちに言った。

『宴会の用意はできているが、招待しておいた人たちは、それにふさわしくなかった。

22:9 だから、大通りに行って、出会った者をみな宴会に招きなさい。』

22:10 それで、しもべたちは、通りに出て行って、良い人でも悪い人でも出会った者をみな集めたので、宴会場は客でいっぱいになった。

22:11 ところで、王が客を見ようとしては、いつて来ると、そこに婚禮の礼服を着ていない者がひとりいた。

22:12 そこで、王は言った。『あなたは、ど



うして礼服を着ないで、ここにはいつて来たのですか。』しかし、彼は黙っていた。

22:13 そこで、王はしもべたちに、『あれの手足を縛って、外の暗やみに放り出せ。そこで泣いて歯ぎしりするのだ。』と言った。

22:14 招待される者は多いが、選ばれる者は少ないのです。』

神様がイスラエル民族を招いたのは、律法をただ守らせるための、堅苦しい生き方ではありませんでした。それは「結婚の披露宴」のような、喜びへの招きだったのです。しかし、イスラエルはその神様を軽んじて、応じませんでした。

そこで誰でもが招かれるようになりました。すなわち主は、異邦人でさえも招いてくださったのです。すなわち十字架による全人類の救いです。

しかし、婚禮の席にふさわしくない者があるように、神の国にもふさわしくない者があります。それは、礼服を着ていない者のように義の衣を着ていない者です。

「招待される者は多いが、選ばれる者は少ないのです。」とイエス様が言われるように、誰でも救いに招かれていますが、それに応答して救いを得る人は少ないということです。

私たちが救われているということは、本当に貴重な貴重なことであるということ、改めて心しましょう。そして感謝し、救われている者の勝利の人生を歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



22:15 そのころ、パリサイ人たちは出て来て、どのようにイエスをことばのわなにかけようかと相談した。

22:16 彼らはその弟子たちを、ヘロデ党の者たちといっしょにイエスのもとにやって、こう言わせた。「先生。私たちは、あなたが真実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをもはばからない方だと存じています。あなたは、人の顔色を見られないからです。

22:17 それで、どう思われるのか言ってください。税金をカイザルに納めることは、律法にかなっていることでしょうか。かなっていないことでしょうか。」

22:18 イエスは彼らの悪意を知って言われた。「偽善者たち。なぜ、わたしをためすのか。

22:19 納め金にするお金をわたしに見せなさい。」そこで彼らは、デナリを一枚イエスのもとに持って来た。

22:20 そこで彼らに言われた。「これは、だれの肖像ですか。だれの銘ですか。」

22:21 彼らは、「カイザルのです。」と言った。そこで、イエスは言われた。「それなら、カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。」

22:22 彼らは、これを聞いて驚嘆し、イエスを残して立ち去った。

カイザルとは政治的な権力者であり、また社会の秩序でもあります。しかし同時に侵略者であり、圧政者でもありますから、反感もあつたのです。政治や社会の権力とはいつの時代にもこのようなもので、不完全であります。また同時に必要なものでもあるのです。

ですからイエス様はカイザルの権威を認めても、

批判されるでしょうし、カイザルを認めなくても批判されたでしょう。どちらを取るか…。

しかし神の国の真理は別のところにありました。この世の権力と神の権威とは次元がまったく違うのです。つまり、この世の秩序を守りながらも、神の権威に従って生きることができるのです。

「カイザルのもの」と「神のもの」とは次元が違うように、私たちもこの世の秩序を守りながら、誠実な社会人として生きながら、神様に全面的に従っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶12日 金曜

マタイ

22:23 その日、復活はないと言っているサドカイ人たちが、イエスのところに来て、質問して、

22:24 言った。「先生。モーセは『もし、ある人が子のないままで死んだら、その弟は兄の妻をめとって、兄のための子をもうけねばならない。』と言いました。

22:25 ところで、私たちの間に七人兄弟がありました。長男は結婚しましたが、死んで、子がなかったので、その妻を弟に残しました。

22:26 次男も三男も、七人とも同じようになりました。

22:27 そして、最後に、その女も死にました。

22:28 すると復活の際には、その女は七人のうちだれの妻なのでしょう。彼らはみな、その女を妻にしたのです。」

22:29 しかし、イエスは彼らに答えて言われた。「そんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからです。

22:30 復活の時には、人はめとることも、とつぐこともなく、天の御使いたちのようです。

22:31 それに、死人の復活については、神があなたがたに語られた事を、あなたがたは読んだことがないのですか。

22:32 『わたしは、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。』とあります。神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です。」

22:33 群衆はこれを聞いて、イエスの教えに驚いた。

これもこの世と神の国とを同列に置いてしまっている質問です。復活を信じないサドカイ派ですから、このように地上で再婚している人は、天国で元妻と



会ったら困るだろうというのです。現代でもこれと似たようなことを考える人もあるでしょう。

しかし神の国はこの世とは全く違います。夫婦は二人で一人前のように、その欠けを補う意味もありますが、天の御国ではみなが栄光の姿に変えられるのですから、その必要はないでしょう。また誰か一人を選んで愛さなければならないというのではなく、みなが神の民であり完全な愛によって満たされているのです。以上は類推ではありませんが、結婚の喜びよりもはるかに大きな喜びで満たされているのが天の国です。

来るべき神の国の希望を思いながら、その希望に根ざした生き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



22:34 しかし、パリサイ人たちは、イエスがサドカイ人たちを黙らせたと聞いて、いっしょに集まった。

22:35 そして、彼らのうちのひとりの律法の専門家が、イエスをためそうとして、尋ねた。

22:36 「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」

22:37 そこで、イエスは彼に言われた。

「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

22:38 これがたいせつな第一の戒めです。

22:39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

22:40 律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

22:41 パリサイ人たちが集まっているときに、イエスは彼らに尋ねて言われた。

22:42 「あなたがたは、キリストについて、どう思いますか。彼はだれの子ですか。」彼らはイエスに言った。「ダビデの子です。」

22:43 イエスは彼らに言われた。「それでは、どうしてダビデは、御霊によって、彼を主と呼び、

22:44 『主は私の主に言われた。「わたしがあなたの敵をあなたの足の下に従わせるまでは、わたしの右の座に着いていなさい。」』と言っているのですか。

22:45 ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうして彼はダビデの子なのでしょう。」

22:46 それで、だれもイエスに一言も答えることができなかつた。また、その日以来、も

はやだれも、イエスにあえて質問をする者はなかつた。

イエス様こそが律法の本髄を理解している方であり、また救いの歴史を知っているお方です。そのイエス様について証しているのが聖書ですが、多くの人々はこの聖書と神に関して、パリサイ人やサドカイ人たちのように批判的な論争をしかけてきます。

この世の判断基準で論争しても、結局神の国はこの世のものではないので、かみ合うことはありません。イエス様も「あえて質問する者は」いなくなっても、さらにご自分から論争して勝つということとはなかつたのです。

論争で神の国の真理を悟らせることはできません。ただ聖霊によるのです。論争で負けないことも悪くないでしょうが、それ以上に祈りによる聖霊の力が大切なのです。

祈りつつ証をし、祈りつつ伝道しましょう。また誰かのミニストリーのために、聖霊が働かれるように祈りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



23:1 そのとき、イエスは群衆と弟子たちに話をして、

23:2 こう言われた。「律法学者、パリサイ人たちは、モーセの座を占めています。

23:3 ですから、彼らがあなたがたに言うことはみな、行ない、守りなさい。けれども、彼らの行ないをまねてはいけません。彼らは言うことは言うが、実行しないからです。

23:4 また、彼らは重い荷をくくって、人の肩に載せ、自分はそれに指一本さわろうとはしません。

23:5 彼らのしていることはみな、人に見せるためです。経札の幅を広くしたり、衣のふさを長くしたりするのもそうです。

23:6 また、宴会の上座や会堂の上席が大好きで、

23:7 広場であいさつされたり、人から先生と呼ばれたりすることが好きです。

23:8 しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはいけません。あなたがたの教師はただひとりしかなく、あなたがたはみな兄弟だからです。

23:9 あなたがたは地上のだれかを、われらの父と呼んではいけません。あなたがたの父はただひとり、すなわち天にいます父だけだからです。

23:10 また、師と呼ばれてはいけません。あなたがたの師はただひとり、キリストだからです。

23:11 あなたがたのうちの一番偉大な者は、あなたがたに仕える人でなければなりません。

23:12 だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。

律法は正しいものですが、人を救う力はありません。むしろ権威や権力を生み出します。そしてその

権威が価値あるものとなってしまいます。(ちなみに神学も同じような面がありますから、注意しなくてはなりません。)神以外のものが権威となるのは危険です。

パリサイ人はそのように律法の権威でしたが、行いはイエス様が言われる通り、「まねては」いけないものでした。

ただしイエス様は「彼らがあなたがたに言うことはみな、行ない、守りなさい。」と言われるように、その教え自体は正しいと認めておられました。それでもパリサイ人にさばきがあることを、イエス様は明言しておられますから、彼らの生き方が間違っていることは確かです。

このように正しいことを言う人が正しいのではなく、正しく行う人が正しいのです。また間違った行いの人が言う内容も正しいことがありますから、私たちは個人の感情ではなく、神の真理に照らして考える必要があります。

ここに書かれているような面が自分にはないかどうか、吟味してみましょう。もしも気づくものがあったなら、神様に告白して、価値観を正しいものにするように、祈りましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

